

主題	原因不明の内出血事故を減らしたい！！		
副題	～安全な生活のために事故原因を探り、再発防止、予防に活かす取り組み～		
事故防止		環境改善	
研究期間	24ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム 白十字ホーム
発表者：小貫 公太（おぬき こうた）		アドバイザー：	
共同研究者：馬場 美幸			
電 話	042-392-1375	メール	hakujyuuji@mua.biglobe.ne.jp
FAX	042-392-1255	URL	http://hakujuji-home.jp/

今回発表の事業所やサービスの紹介	社会福祉法人白十字会 白十字ホームは昭和42年に開設。定員は182床（うちショートステイ12床）。同一敷地内施設・事業にはデイサービス・病院・訪問看護ステーション・訪問介護・老人保健施設・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所があります。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

お年寄りの体に内出血が来ていることに対しての危機感があまり見られず、原因を探り対策をたてることがおざなりになっていた現状があった。

そんな中、H22年に原因不明の内出血の事例が急激に増加したことを受けて安全委員会の中でもこのままではいけないとの意識が高まり取り組み開始することとなる

取り組むべき課題は

- ・内出血事故の状況の把握・原因の追究・再発防止。
- ・安全委員会での取り組みや工夫。
- ・内出血予防に対する意識の向上。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

- ・防げる事故は未然に防ぐ

原因となるものの把握と予防対策をおこなうことで事故〇は難しくても減少させたい。

- ・原因追究

過去の事故を探り把握することで、同じような危険を事前に察知し、事故防止につなげていく。

- ・個々の状況を把握し、全体で共通認識を持つことでその利用者にあった機器の使用や環境整備を行える知識を得る。

《3. 具体的な取り組みの内容》

① 内出血の現状把握

繰り返し内出血事故が起きている方をリストアップし出来やすい箇所の把握をする。

② 事故報告書の改訂

内出血専用の事故報告書を作成

1人の方の内出血に対しいつ何時出来たものなのかの把握する為に、いくつかの内出血事故を一枚に記入できるようにした。

何でできたのか、いつできたのかの把握と原因追究を行う為の用紙に変更。

③ 環境整備

- ・ベッド柵にカバー
- ・スウィングアウト式の車イス導入
- ・フットレストカバー作成
- ・レッグウォーマー導入
- ・アームカバー導入
- ・着脱しやすい衣類の検討
- ・二人介助

④ 個々に合わせた安全に移乗できる方法等の検討のためにリハビリ、看護師、介護士が連携できる環境を作る。

《4. 取り組みの結果と考察》

①②内出血専用事故報告書の導入により、内出血を繰り返している方のリストアップと、いつ、どのときに出来たものなのかを原因追究する事ができた。そのなかで再発防止の為に何が必要なのか他部署も交え外的、内的要因を踏まえた上で検討し、予防に努め、職員にも周知する事が出来た。しかし、1件の事故に対し、1枚書いていた事故報告書を1枚に4回書けるという事で前記のようなプラス面も見えたが集計、検討することが難しい一面があり、この用紙は事故報告書としてではなく資料用の用途に変更となる。

③スウィングアウト式の車イスの導入は移乗時の足の巻き込みを防ぎ、足回りの内出血を減少させる結果になったものの、スウィングアウトさせずに移乗している職員がいるという現実もあり、この現状を改善するための職員間の事故防止に対する意識の向上も重要であると感じる。

また皮膚の弱い方のためのレッグウォーマー、アームカバーの使用は、内出血事故防止の効果がある反面、着けている事により内出血の発見が遅れてしまうという面もあるが、内出血予防効果も得られた為現在も使用している。

④内出血が出来やすい人や、介助が困難な人に対してはリハビリ、看護師、介護士、相談員がカンファレンスを持ち、その人にあった環境を適宜作る事が出来てきている。その事が内出血の事故の減少や予防につながっていると思われる。今後もこの環境を継続していきたい。

《5. まとめ、結論》

H23 年度内出血の事故件数 390 件/年起きていたが、次年度 242 件/年と減少してきている。

内出血事故件数をゼロにするのは難しいことだろうが、今まで行ってきたことの蓄積と各部署が連携しアイディアを出し合う現在のこの体制を大切に、利用者の安全、安心な生活の為に、事故が減少し続けることを目標に取り組みを続けていく。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたりご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しない事、それにより不利益を被る事はない事を説明し、回答をもって同意を得た事とした。

《8. 提案と発信》

現在も内出血が出来やすい方に対し、各部署と連携を取り、内出血予防に取り組んでいる。一つの内出血事故に対して、薬や皮膚の状態等を含め、原因を多面的にみられることが重要であると考え

【メモ欄】